

## アズマネザサの生活について

吉田 三夫\*

On the life history of *Pleioblastus chino* (Franch. et Savat. ) Makino

Mituo YOSHIDA

### I はじめに

アズマネザサはタケ科メダケ亜属ネザサ節の植物であり、成長の良いものは、高さ6 m、稈の太さは2 cmに達する。陽性の植物でありながらも、耐陰性もあり、関東から東北地方にかけて、一部北海道にも、分布する。

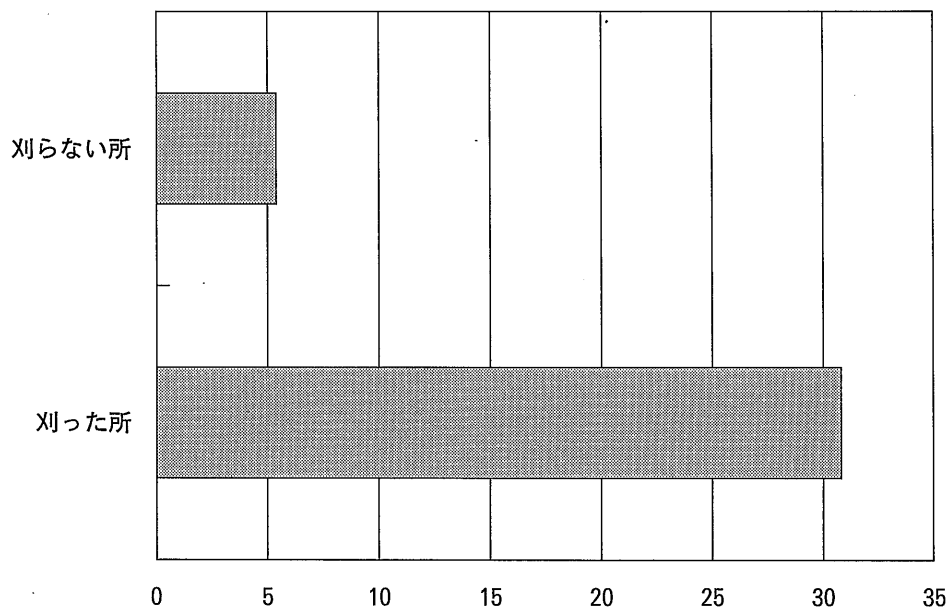
多摩丘陵の大半の植生はクヌギ、コナラからなる代償植生（二次林）であり、里山としての雑木林である。昭和30年代までは、雑木林の樹木は薪炭に、下草は有機肥料として活用されてきた。しかし、現在ではガスや化学肥料にとってかわられ、雑木林に人の手は入らず、放置されたままになっている。そこで、草本層にアズマネザサが優占し、林床を暗する結果、草本層の植物種数を極

端に少なくしている。

多摩丘陵に属する川崎市の生田緑地公園も大半の植生は雑木林である。放置すれば遷移が進むことなどから萌芽更新の試みがなされせたり、前述のことや景観上から部分的に下草刈りがなされたりしている。同じ林分で半分は下草（アズマネザサ）刈りがなされ、残り半分は放置された雑木林のアズマネザサの地下茎などが、年を経るにつれてどのように変化するかを比較するのが、本稿の目的である。

昨年、この地表の相対照度と草本層の植物種数を調べて比較してみた。相対照度は下草を刈った所は30.8%、刈らない所は5.4%であり、下草を刈ることにより、約6倍明るくなることが分かった。

グラフ1 相対照度（パーセント）



草本種数は刈った所は31種、ゴンズイ、ケアキ、サンショウ、クサギ、チヂミザサ、ヒメコウゾ、ミツバアケビ、コブシ、ヒロドコロ、サルトリイバラ、ミヤマナルコユリ、ヤブガラシ、ノブドウ、タチツボスミレ、イロハモミジ、ヤブムラサキ、クマノミズキ、ヒヨドリジョウゴ、ガマズミ、ハリギリ、オトコエシ、ニガイチゴ、ナワシロイチゴ、ムクノキ、クマヤナギ、オニドコロ、アカメガシワ、タマノカンアオイ、アオキ、シラカシ、ネズミモチが生育していた。また刈らない所には8種、アオキ、ヒイラギ、シュロ、シロダモ、シラカシ、ヤブコオジ、イヌツゲ、サルトリイバラが生育し、下草を刈ることにより、植物種数が約4倍増えていた。

これらは地面から上の資料である。下草が刈られてから約4年経ている立地であるが、地面から下、地下茎の深さ、太さ、地下茎と稈の太さの関係などに、下草が刈られた所と刈られない所では違いが出ているのだろうか。

## II 調査地

調査地は神奈川県川崎市多摩区に位置する生田緑地公園であり、本地域は多摩丘陵に属する。

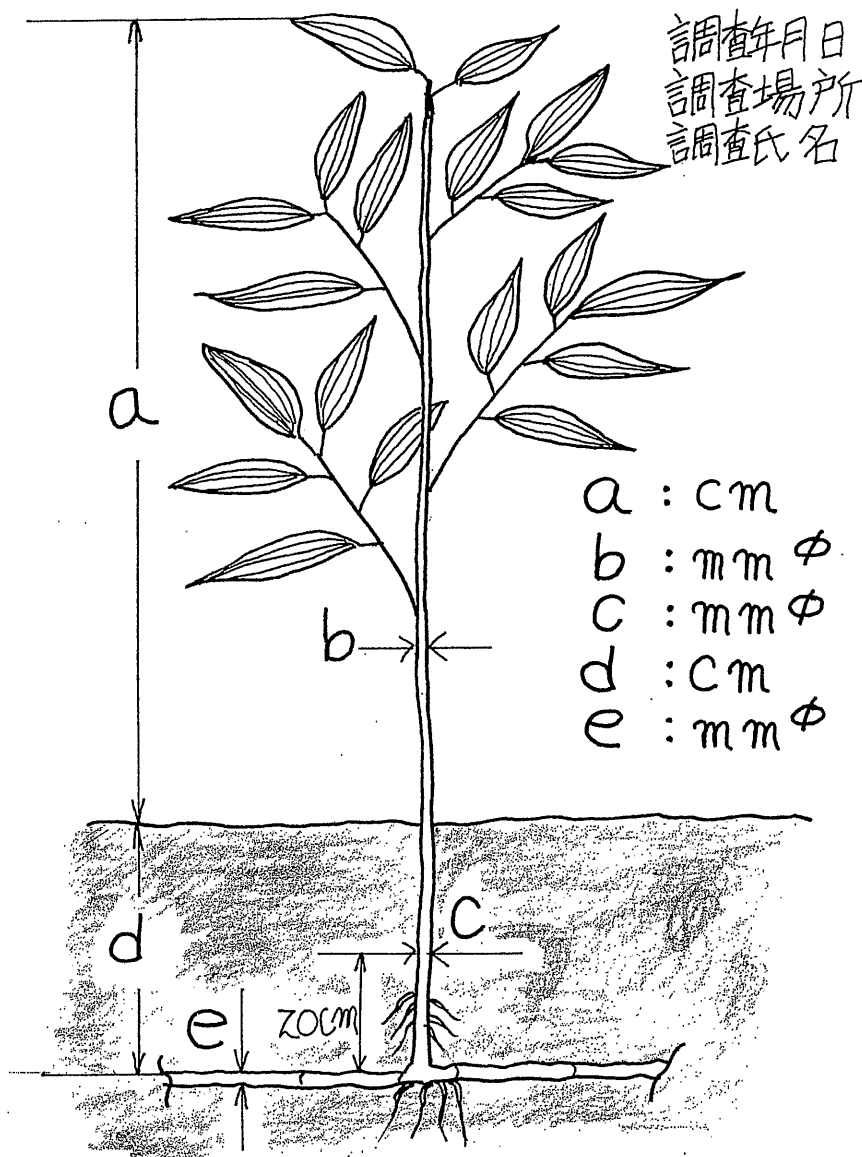
## III 調査項目

調査項目は、地面からの高さ、稈の太さ、地下茎から20cm上の稈の太さ、地面から地下茎までの深さ、地下茎の太さとし、便宜的にそれぞれ調査項目をa～eまでのローマ字で表した。太さの計測は工業用ノギスを使用した。

図1

# アズマネザサ調査票

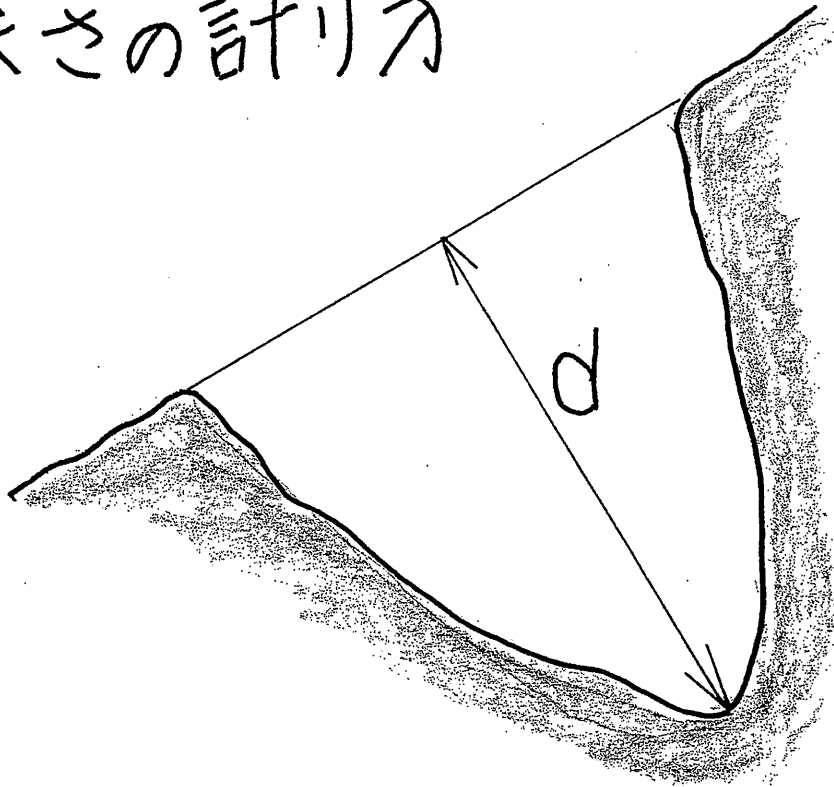
No \_\_\_\_\_



また地面から地下茎までの深さは下図の通り計測した。

図 2

# 深さの計り方



## IV 調査結果及び考察

調査結果を表にすると次のようになった。NO1、NO2、NO5、NO6、NO7、NO8は下草（アズマネザサ）を刈った所、NO3、NO4、NO9、NO10は下草を刈らなかったところである。

| 刈った所  | a :cm | b :mm直径 | c :mm直径 | d :cm | e :mm直径 |
|-------|-------|---------|---------|-------|---------|
| NO1   | 134   | 3       | 4       | 23.5  | 6       |
| NO2   | 172   | 5       | 7       | 33.5  | 6.5     |
| NO5   | 148   | 4       | 6       | 28    | 6.8     |
| NO6   | 124   | 3.5     | 9       | 33    | 8       |
| NO7   | 24    | 6       | 6.5     | 15    | 9       |
| NO8   | 88    | 3.5     | 5       | 30    | 9       |
| 刈らない所 |       |         |         |       |         |
| NO3   | 264   | 6.5     | 8       | 45    | 7.5     |
| NO4   | 320   | 8       | 7       | 43    | 6       |
| NO9   | 140   | 3.5     | 4       | 31    | 6       |
| NO10  | 320   | 13      | 12      | 55    | 8       |

記号説明 a : 地面からのアズマネザサの高さ、b : 稈の太さ、c : 地下茎から20cm上の稈の太さ、d : 地面から地下茎までの深さ、e : 地下茎の太さ

### 1 刈られた所での稈の出方

刈られた所での稈の出方は一般的に地下茎から新たに  
出るが、中には地面と地下茎の間にある節から枝を伸ば  
す例も見られた。これは樹木の枝が切られたら、その下  
の芽が伸びて成長するのと同じことである。この例は調  
査地NO6において見られた。調査項目の「地下茎から  
20cm上の稈の太さ、記号C」は枝の太さではなく、刈  
られた方の太い稈を計測したので、調査結果の表ではN  
O6のcの値が大きくなっている。

#### 写真3



土中の節から伸びる枝（稈）

### 2 地面上から地下茎までの深さ（a） グラフ2参 照のこと

刈られた所と刈られない所の地面上から地下茎までの  
深さを浅い順に並べ替えて折れ線グラフにしたものが、  
グラフ2である。

刈られた所の6ヶ所の深さは15cm～33.5cmま  
で、刈られない所の4ヶ所の深さは31cm～55cmま  
まで、刈られた所は刈られない所よりほぼ全て浅い。約  
4年前は同じ林分であり、半分は刈られ半分は刈られな  
かったのだから、地面上から地下茎までの深さはほぼ同  
じ深さと推測されるが、実際には、刈られた所の地下茎  
が浅くなっていることが分かった。これは新たに伸びた  
地下茎が浅くなったとも考えられるが、他方、刈られた  
所の深さが刈られない所よりほぼ全て浅いということか  
ら、刈られた所の方が全体的に地下茎そのものが、浅く  
なってきたり、つまり、浮き上がってきたりとも考  
えられる。

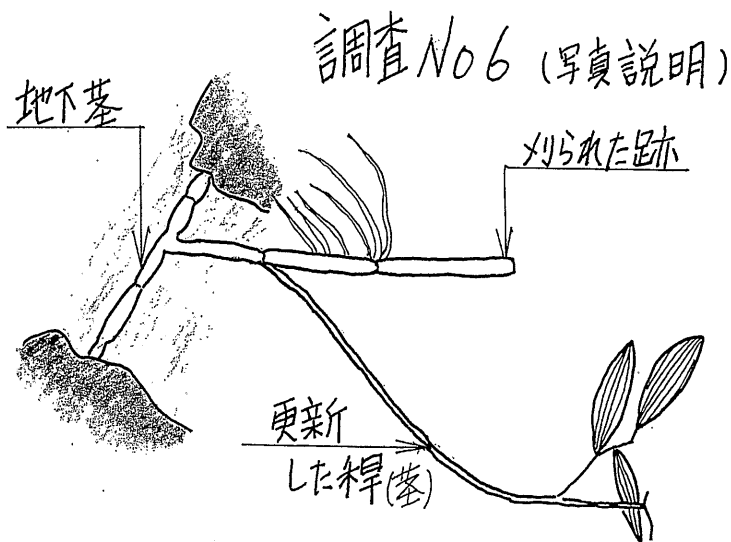
### 3 高さ（a）と深さ（d） グラフ3参照のこと

高さ、深さ共に地上からで、定義は前述の通りである。  
刈られた所、刈られない所、共に高さの低い順に並べ替  
えて、深さととの関係を折れ線グラフにしたのが、グラフ  
3である。

刈られた所では植物体が高くなれば成る程、地下茎ま  
での深さが深くなるという関係が読み取れない。これに  
対して刈られなかった所では刈られた所とは反対に、ほ  
ぼ高くなれば地下茎までの深さが深くなる関係になって  
いる。

アズマネザサに限らず樹木でも樹高が高くなる程、植

図3



物体を支えるために、根は太く深くなる筈である。刈ら  
れた所では発芽した稈や地中から伸びた枝が細く高くな  
いために、高さや深さに相関関係が読み取れないと考  
えられる。

グラフ2で見た地面上から地下茎までの深さが刈られ  
た所では浅かったのは、高さが低く、稈が細いために植  
物体を支えるのに深い必要はないとも考えられる。

### 4 稈（茎）の太さ（b）と地下茎の太さ（e） グ ラフ4参照のこと

稈の太さと地下茎の太さを、刈られた所と刈られない  
所を調査番号順に並べたものが、グラフ4である。

刈られた所では地下茎の太さは全て稈の太さより太い。  
新たに出てきた稈は当然、細く低いからである。普通、  
刈られない所のアズマネザサは、他のタケ類も同様であ  
るが、発芽した稈はその年のうちに回りに生育している  
アズマネザサと同じ高さまで成長する。約4年前に刈ら  
れたことにより、地下茎に養分が蓄積されず、太さも高  
さも、約4年経ても回復できないでいることになる。ア  
ズマネザサは刈られるとダメージがかなり大きく、回復  
するまでに10年位の歳月を必要とするのではないだろ  
うか。かつて、雑木林を薪炭林としていた頃、定期的に  
下草刈りをしていたというので、アズマネザサは特に目  
につく植物ではなかったように考えられる。

刈られない所の稈の太さと地下茎の太さに相関関係は  
ない。地下茎の方が深かったり、又はその反対である。  
これは資料の不足によるものかも知れない。今後の調査  
が望まれるところである。

## V 要約

今回の調査で次の事柄が分かった。

1 雑木林が放置されることによりアズマネザサが優占し、下草が刈られるようになったので、同じ林分で刈られた所と刈られない所のアズマネザサの地下茎までの深さや太さ等の比較が出来るようになったこと。

2 アズマネザサが刈られた時、土の中の節から枝を出し、稈のようになる場合があること。

3 刈られた所のアズマネザサの地面上から地下茎までの深さは刈られない所より浅くなっていたこと。

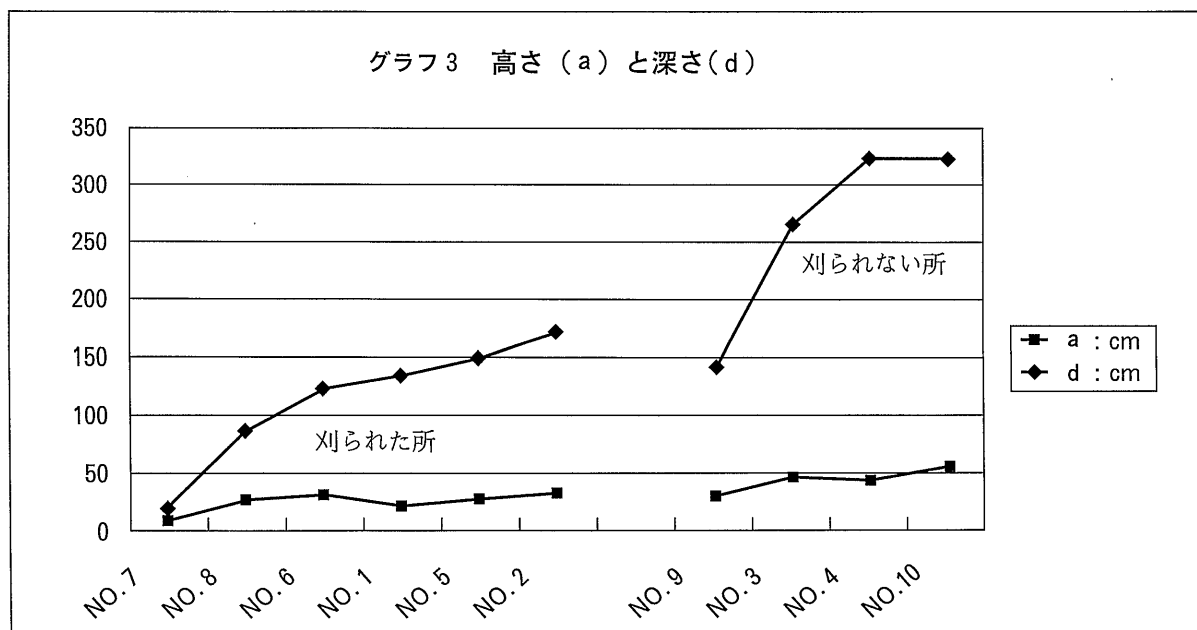
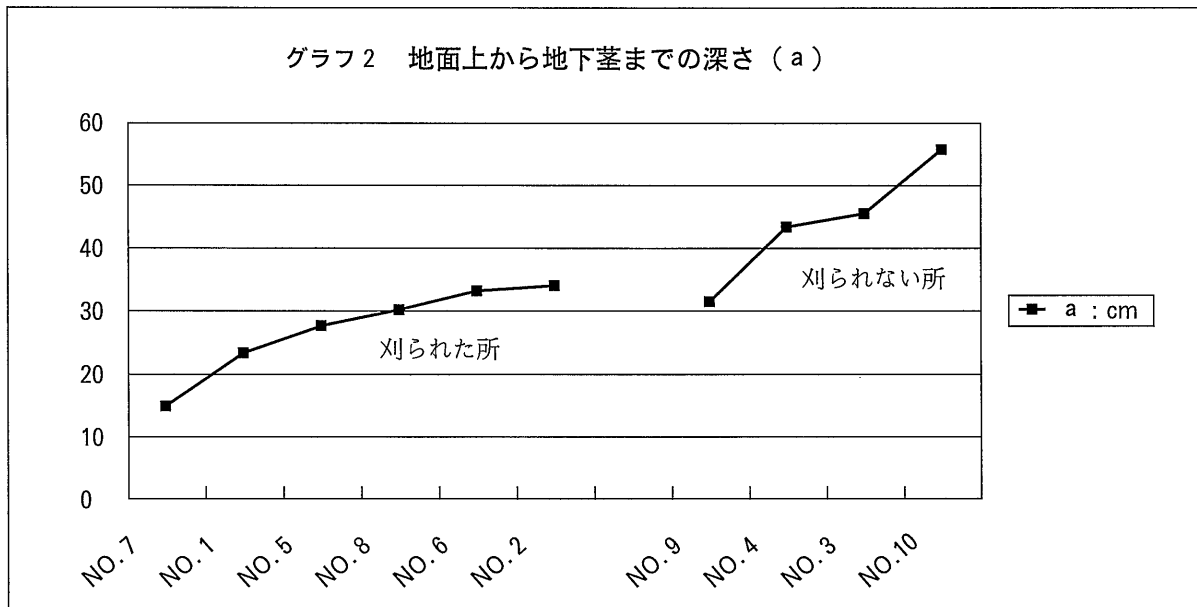
4 刈られない所ではアズマネザサが高く成る程、地面上から地下茎までの深さが深くなる傾向が見られるが、刈られた所ではその傾向が見られないこと。

5 刈られた所では全て地下茎の太さは稈の太さより太いこと。

6 アズマネザサは1度刈られただけでもダメージが大きく、元の状態に回復するのにかなりの年数を要すること。

## VI 謝辞

本調査を行うに当たり学芸員実習生、原明宏氏、宮武優佳氏、松井康浩氏、藤山奈緒美氏、曾和亜希子氏、島田久美氏、大塚寛之氏にお世話になりました。末筆ですが厚くお礼申し上げます。



グラフ4 茎の太さ(b)と地下茎の太さ(e)

